

E-8 女子中・高校生の将来生活観とそれに影響する要因について—母親の生活
観及び生活態度との関連を中心に—
山口女大家政 中間美砂子

目的 青年期には、未来の自分として同一化できる同性の模範がアイデンティティ形成に不可欠の条件とされているが、現代女子中・高校生にとって最も身近な母親はアイデンティティ形成の模範となり得ているであろうか。そこで、女子中・高校生の将来生活観を探り、その母親達の生活観及び生活態度の影響の有無を確かめ、今後の母娘関係のあり方への示唆を得るものとする。

方法 山口県下中都市ス地区よりそれぞれ中学校1校、高等学校1校、計4校を選び、各校第1学年女生徒全員649名及び彼女らの母親649名を対象とし、昭和53年5月～6月に調査を実施した。調査方法は質問紙留置法を用いた。

結果 女子中・高校生の将来生活観として、職業観、学歴観、レジャー観、結婚観、夫婦観の5項目について探ったところ、職業観、学歴観、結婚観については、中・高間に有意差がみられ、母親の生活観との比較においてはいずれの項目についても有意差がみられ世代間のずれの大きさが確認された。各母娘間の各項目間の一致率をみても比較的低く、娘の将来生活観への母親の生活観の影響が強いとはいえない。一方、母親のしつけ方と、母親のしつけ方に対する娘の認知との間にも有意差がみられ、必ずしも母親が娘のアイデンティティ形成の模範とはなり得ていないことを示していると思われる。しかし、母親の職業の有無を含めた、現在の生き方と娘の将来生活観との間には関連性かみられ、娘の将来生活観形成には母親の生活観よりも生活態度の影響が大きいことが確認された。